



北海道で見つけた風景

紀行写真家 梅津 基世人

北海道で見つけた風景

— 花咲岬からサロベツ原野まで 厳冬の旅 —

紀行写真家 梅津 基世人

FUJIFILM



A 1 2 3 4 5 6 7 8 9 0 1 2 3 A

北海道で見つけた風景

－花咲岬からサロベツ原野まで 厳冬の旅－

本書は、2013年2月と2014年2月に北海道を旅した時の記録写真集です。北海道は2002年の夏に一度周遊したことがあるのですが、その時はまだコンデジしか持っていなく、撮っていたのは記念写真ばかりでした。

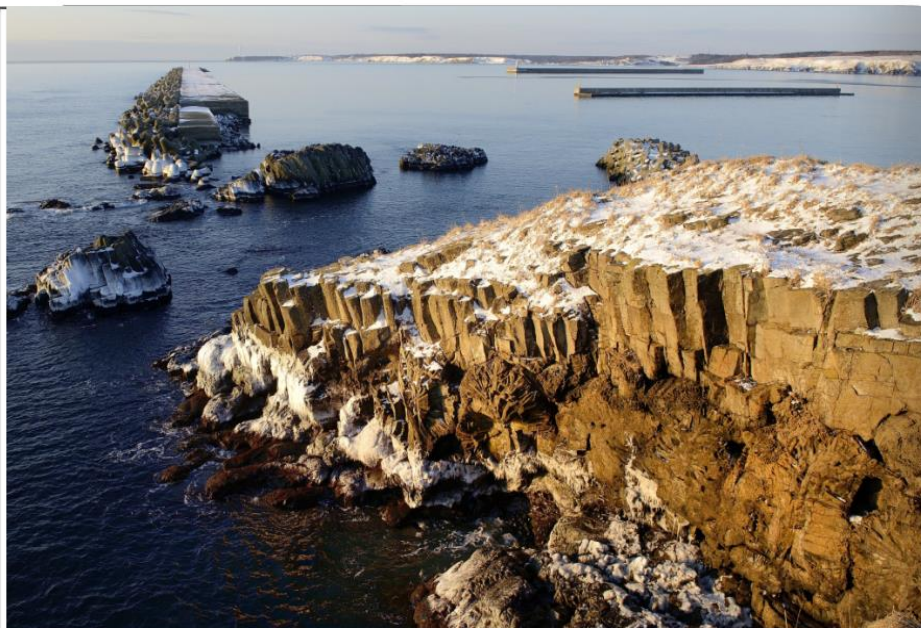
しかし、初めて目の当たりにした知床や釧路、美瑛、富良野などの自然が忘れられず強く印象に残っていました。

以来、特に冬の北海道にあこがれ、流水が見たい！オオワシやオジロワシが見たい！タンチョウが見たい！アザラシもペンギン（の散歩）も見たい！と、「何でもかんでも見てみたい病」に罹っていました。

今回2度にわたり旅をして、幸せなことにその願望をほとんど叶えることができましたが、そうなると欲が出るもので「また行きたい病」に罹っているこの頃です。

2016年11月

梅津 基世人

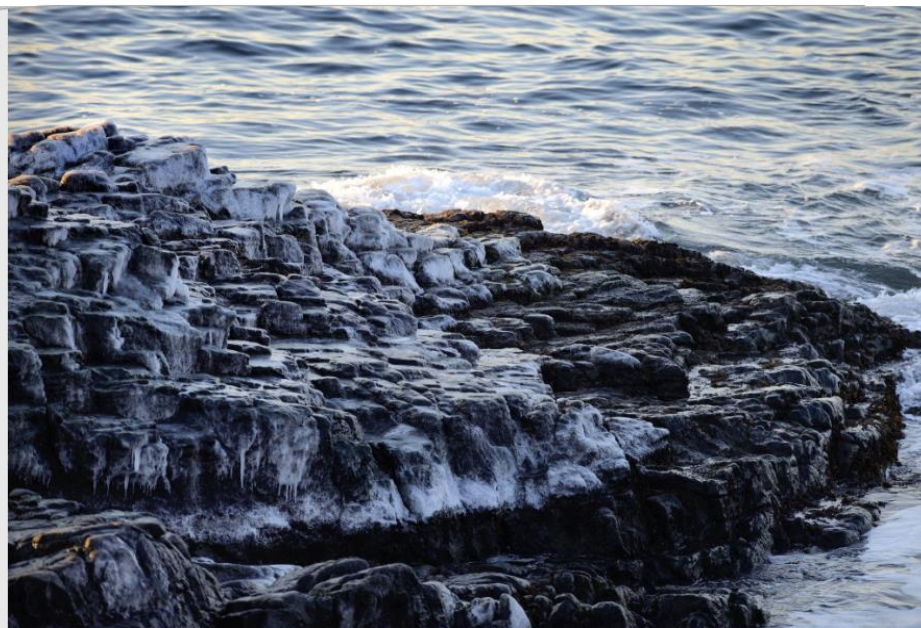


花咲岬～花咲港（根室市）

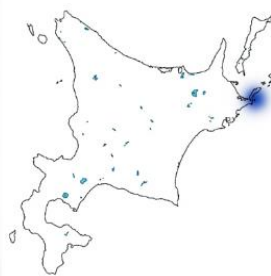
日本の最南端、根室市にある花咲岬は、隠れた名所でした。
何もない太平洋から昇る朝日、見事な柱状節理群、世界的にも珍しい放射状節理の車石（※）、そしてオオワシ、オジロワシ、キタキツネなどの野生動物たち…凍てついた空気の中、とても素晴らしい記憶が残りました。

（※）根室車石 灯台のすぐ下にある放射状節理の玄武岩です。車輪に似ていることからホイールストーン（車石）と呼ばれます。

上：花咲岬と花咲港
左：朝日に染まる根室車石



上・右：岬の突端に広がる見事な柱状節理群





花咲岬から花咲港に向かう途中の丘で、エゾシカのツガイに出会いました。
車から降りた途端に、ジャンプして逃げ出しましたが、その速さと跳躍力に驚くばかり…
気を取り直して車を進めると、今度はキタキツネが。花咲岬は地味で人気スポットでもないかも知れませんが、自然や動物好きには中々素晴らしい場所です。

上:エゾシカ
左:キタキツネ

(花咲岬～花咲港)

花咲岬を離れ、花咲港に着きました。
ここは流水の影響がないので、漁船が操業しています。港内では多くの海鳥が浮かび、漁船が捕獲した魚を狙っていました。

オオワシがいないかと港内をぐるぐる回っていると、木杭にとまったオジロワシを発見。堂々とした姿には風格さえ感じます。
オジロワシを撮影していると、少し離れたところにオオワシがやってきました！
ちょうど飛び立つシーンが撮れ、今回の旅でオオワシのベストショットとなりました。

右:オオワシ
下:オジロワシ





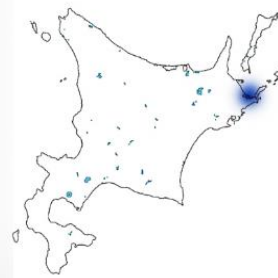
春国岱 原生林と風連湖（根室市）

春国岱は、根室湾と風連湖を分ける砂州の島。オホーツク海流によって運ばれた砂が堆積してきたもので、湿地と原生林で形成されています。原生林には一部ですが観察路も整備されており入ることができます。風連湖の遊歩道からは、覗いていけば北方領土が意外なくらい近くに見えます。テトラポッドの上で羽を休めていたオジロワシが飛び立ち、旋回してちょうど島の上を飛ぶような形で目の前を横切ってくれました。感激&感謝！

上：春国岱の原生林
左：結氷した風連湖



上・右：北方領土を背景に飛ぶオジロワシ





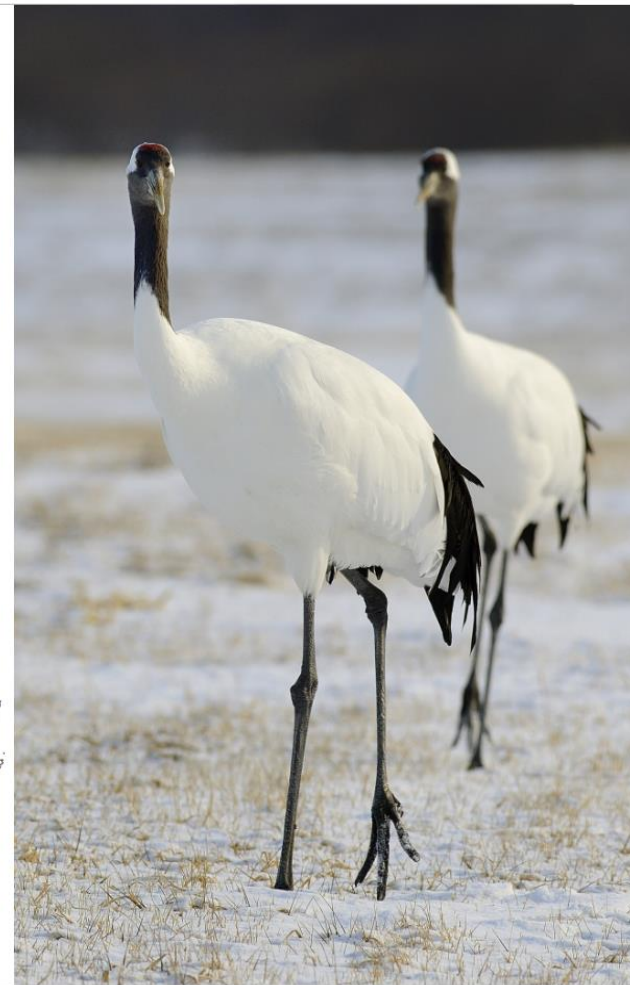
浜中町付近(厚岸郡)

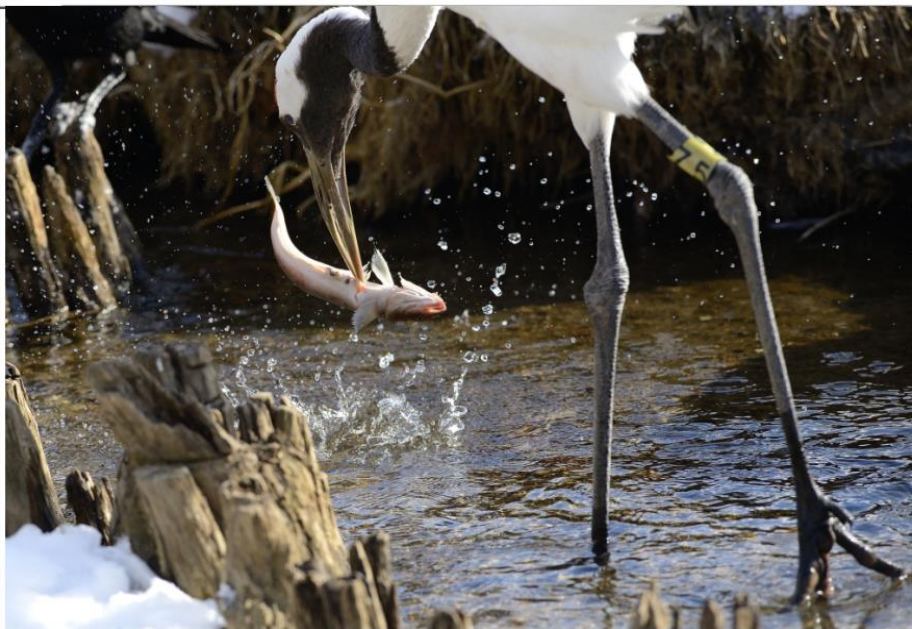
浜中町付近を走っていた時、道路横の牧草地(原野)にいたタンチョウの夫婦を見つけました。

雪原の中にたえずむ様は、まるで絵のように美しく、沈んでいく夕日に照らされて細くタンチョウの姿に、撮影しながらもしばし見とれてしまいました。



左: 近づく私を直立不動で見つめています。
今回の旅で、タンチョウとこんなに近くで真剣に向き合ったのは初めてでした
右: 少し近づこうとしたら、すかさずひが身をかがまうようにカバーした すこいな





釧路市内・釧路郡

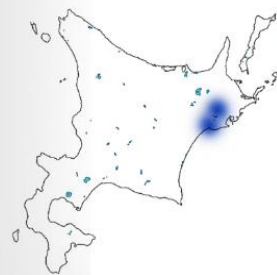
釧路市丹頂鶴自然公園(釧路市)

釧路空港のすぐ北側にある釧路市丹頂鶴自然公園は、タンチョウヅルの保護育成の目的で作られた公園です。金網をめぐらした湿地には20羽ほどのツルが放し飼いになっていますが、飛来する野生のタンチョウはほとんど見られません(動物園に近いイメージです)。世界で初めてタンチョウヅルの人工孵化に成功した施設でもあります。

上・左: 保護されているこのタンチョウはクチバシが変形していました。それでも与えられた鰯(魚)を上手に捕えて食べていました。

SL冬の湿原号(釧路郡)

ごく限られた運転日、そして1日1往復のみの運転。もちろん初めての場所で、それも一発勝負。湿原を走る姿を撮りたかったけど、線路沿いの湿原には入ることができない。湿原とSLと一緒に眺望できる場所もない……結局、細岡駅と釧路湿原駅の間で撮りました。鉄道写真は難しいです。





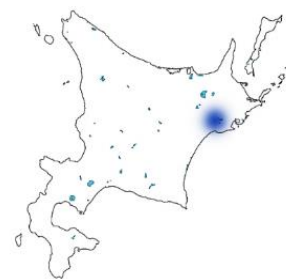
標茶町～鶴居村

コッタロ湿原は、釧路湿原公園の中にある原野のひとつで、特に原生の姿をとどめている湿原と言われています。道路横に展望台があり眼下に一望できます。
 (階段が凍っていて下りでコケました。全身打ちましたがカメラが無事で何より…)
 原野を走っていると、結構エゾシカを見かけます。人馴れしているのか結構近づいても逃げません。農家の庭先ではキタキツネを発見。撮影しているうちに山に入ってしまったのですが、途端に野生の鋭い目になって驚きました。

上:コッタロ展望台から見たコッタロ湿原
 左:エゾシカ



上・右:キタキツネ

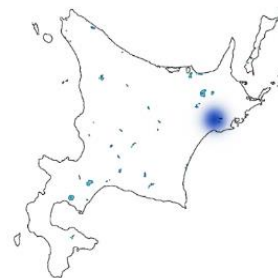




鶴見台(阿寒郡)

鶴見台は、鶴居村にあるタンチョウの給餌場のひとつです。ここでの給餌は、11月～3月までの間、朝(7時頃)と午後(14時30分頃)の2回行われ、夜が明ける頃から多くのタンチョウが餌を求めてやってきます。タンチョウとの距離が近い場所で30mくらい、飛来(着地)場所までは100mくらいあるので、見るだけでも双眼鏡はあった方が良いでしょう。(写真撮影には300mm～500mmのレンズが必要になり、条件が少し厳しいです)また、周りには林や民家があり、グルス(後ページで紹介)などと比べると開放感はいまひとつですが、割と人が少なくじっくり見ていられるので個人的には好きな場所です。

最初のタンチョウが飛来しました。まるでダンスを踊っているかのようです





（鶴見台）



夜が明け給餌場に朝日が差し込み、鶴唳（かぐれい）が始まりました。



（鶴見台）

朝日が当たっても美しい瞬間。共に鳴き合う姿は、とてもうれしそうに見えます。この後、求愛ダンスが始まります。



(鶴見台)

求愛ダンスが始まりました。真剣なのは分かるのですが、求愛なの？ケンカなの？
見ても何だか区別が付きません…

ただし、早に対して2羽だったりすると、見ていてハラハラするくらい激しい争いになります。

左：手前で茫然？とみているのは子供だと思えます。「何してるの」と思いつながらも興味津々な感じ。



(鶴見台)

羽を大きく広げてアピールするのは、クジャクと同じですね！



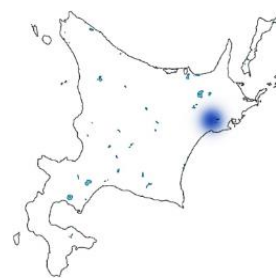
音羽橋(阿寒郡)

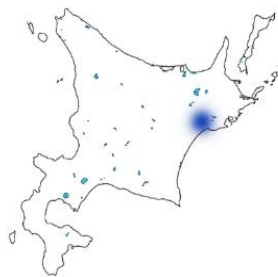
音羽橋は、雪裡川にかかる橋で、タンチョウのねぐらを撮影できるポイントとして人気があります。朝焼けに染まる風景や、朝霧に煙る風景が時に有名で、橋の上には1本100万円以上！もするレンズを構えたカメラマンが行列をなしていました…

左上：朝の7時の音羽橋です。まだひっそりとしていて、鳴き声も聞こえません。（カメラマンは行列済み！）

右上：朝霧が濃くなって川を覆い始めました

左下・右下：日中の音羽橋の様子です





阿寒国際ツルセンター グルス(釧路市阿寒町)

阿寒国際ツルセンター グルスは、釧路市内から阿寒湖に向かって約10分ほどの場所にあり、道の駅「阿寒丹頂の里」が隣接しています。

タンチョウの人口給餌発祥の地で、専門の研究員がタンチョウの生態や行動などを研究施設として1996年に設立されました。

鶴見台とは違い、周りが開けているのでとても開放感があり、比較的近距离でタンチョウが見られます。

また、タンチョウの着地の仕方、狭い場所に降りてくる鶴見台（水平滑空距離が長い）とは違い、上空から急角度で降りてくる感じです。

観察にも撮影にもとても良い施設ですが、観光客が多い上、長いレンズ＋三脚使用のカメラマンがずらっと並んでいるのでその間から覗き見る！感じでした。



(グルス)

ツガイの鶴舞(かぐれい)



(グルス)

タンチョウは、興奮すると頭頂部の赤色が濃くなります

(グルス)



美尻！

(グルス)



お互いお辞儀合っているようで、とても愛らしいです

(グルス)



首が茶色は幼鳥です。雪をかみ砕いていました。

(グルス)



(グルス)

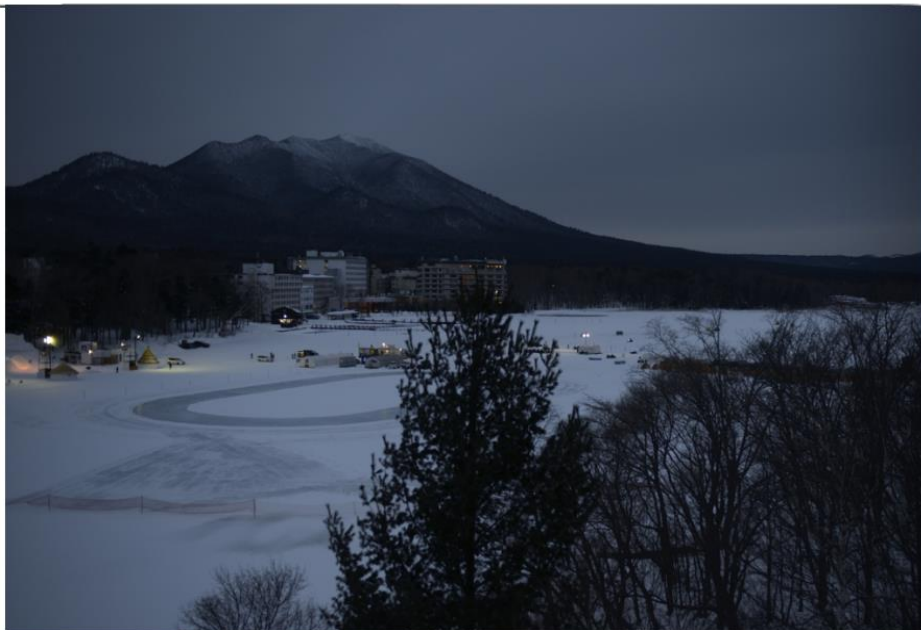


他の♂の求愛をブロックしてます！

(グルス)



逃げ惑う姿が、とてもユーモラス。思わず笑ってしまいました。



阿寒湖(釧路市阿寒町)

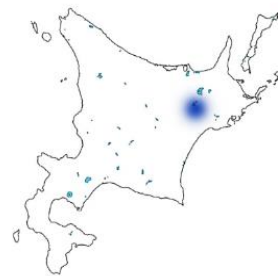
厳冬期の阿寒湖です。フロストフラワー(湖面にできる霜の花)が見たかったのですが、タイミングが悪かったようで見ることはできませんでした。でも阿寒湖の夜明けはとても美しく幻想的で、日常とはかけ離れた世界を体験できました。

ボッケ(泥火山)は、泥や水が地中の炭酸ガスによって吹き上げられ、まるで煮立っているように見えます。何も無いように見える場所でも、足を踏み入れると陥没して大やけどします。

左: 思っても見なかった湖上の花火(大会)
一人淋しい夜! に花を添えてくれました



上: 阿寒湖と雄阿寒岳の夜明け
右: 湖畔にあるボッケ(泥火山)





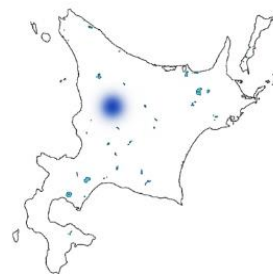
美瑛(上川郡)

マイルとセブンの丘、ケンとメリーの木、セブンスターの木…こう聞いてわかる方は50代以上?ですね。
旭川のついでに、十数年ぶりに「パッチワークの路」に行ってみました。
こんな厳冬期に訪れる人はいなくて、雪で車が何度かスタックしそうになりますが、夏とは違う凜とした空気の中に立つ木々はとても存在感がありました。

上:マイルドセブンの丘



上:セブンスターの木 右:ケンとメリーの木



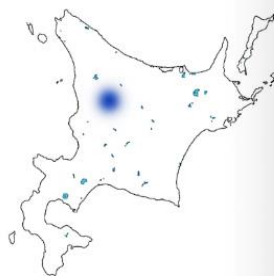
マイルドセブンの丘とセブンスターの木は、当時タバコのパッケージなどで使われたことから名づけられたものです。
ケンとメリーの木は、スカイラインのコマーシャルで登場しましたが、今でも曲(歌詞)を思い浮かべることができます。それだけ印象深かったということですね。





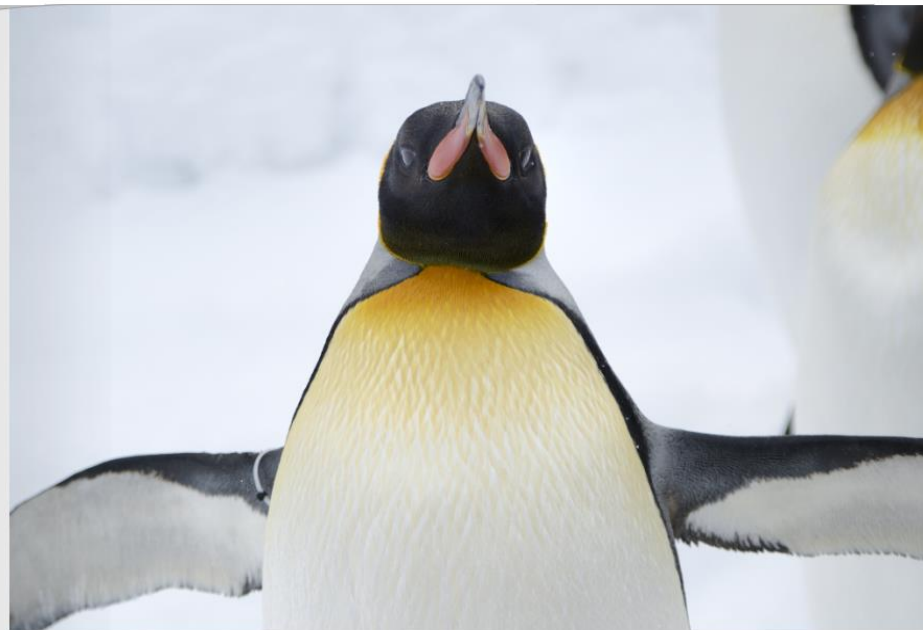
旭山動物園（旭川市）

動態展示で有名になった旭山動物園を、さらに有名にし冬の風物詩としたのがこの「ペンギンの散歩」。真冬の旭川に、全国はもとより海外からもこれを見に観光客が訪れます。ペンギンと言えはかわいいイメージがありますが、なかなかどうして…ふてぶてしい態度をしているペンギンや怒り叫ぶようなペンギンもいるんですよ！
今回はそのペンギンと、ヒグマのとんど、そしてあたらしくできた「かば館」を見るのが目的。かば館は絶対におすすめです。カバがあんなにダイナミックに泳ぐとは想像もできませんでした。本当に驚き、こんな展示を考え実現したことに感動しました。



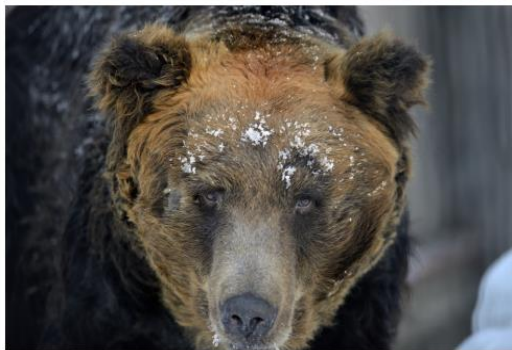
上：ペンギンの散歩

右ページ下：トボガン（雪が多い時に腹ばいになって潜ることがあります）





(旭山動物園)



エゾヒグマ

上:とん子♀(推定14歳/当時)
いつも速く見ていて目が合うことがほとんどないの
ですが、ずっと名前を呼んでいたら、やっとなんか
目を合わせてくれました。

左:くまぞう♂(推定13歳/当時)
右目の横にケガ?の跡があります。



(旭山動物園)

カバ

新しくオープンした「かば館」の水槽を泳ぐカバ。
あの巨体から考えられないほどのスピードで水槽の中を
敏捷に泳ぎまわります。
大きな水槽なのに、カバの動きによって水面が大きく波
打つ様は驚きです。
他では見られない、素晴らしい展示です。





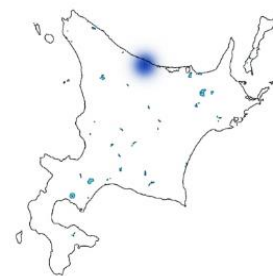
オホーツクの流氷(紋別周辺)

冬の北海道旅の目的のひとつは、今まで見たことのない「流氷」。
 実際に見てみて、繊細でおだやかな流水と豪快で荒々しい流氷があることを知りました。紋別の流水で感激していたら、稚拙の流氷は正に驚愕でした。

上：紋別山の山頂にある「オホーツクスカイタワー」から見た紋別港 流水が雲のように見えます
 左：紋別港 流水が来ると、漁は休業。何十隻もの船が陸に上がっています。



上：日の出岬の流水
 右：日の出岬展望台 ラ・ルーナ





オホーツクの流氷(頓別～猿払)

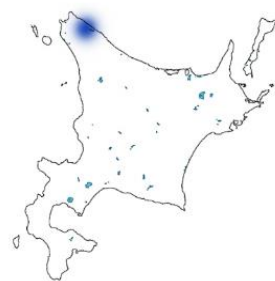
パーキングに立ち寄り、流水を撮ろうと雪だまりの中をズボズボ歩いて行ったら、何やら動くものが…
キタキツネのつがいです。慌ててまた雪の中をズボズボと望遠レンズを取りに戻り撮影しました。♂の何だか情けない表情が印象的でした。

猿払村あたりになると、「うすっぺらな流水」などどこにもありません。もはや雪原&岩場状態です。
ゴーん、ドーンといった低くてにぶい音があちこちから響いてきます。身を切るような冷たさの中、とても不思議な光景と体験でした。

上・左:キタキツネ



上・右:猿払村の流水





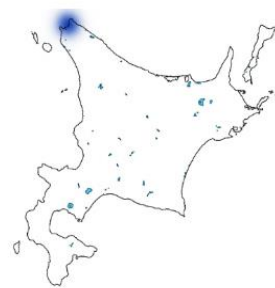
宗谷岬～稚内

日本最北端「宗谷岬」は、写真を撮るのがつらいぐらいの気温と強風。このあたりまで来ると、流水はまた薄くなり、ほとんど海上に見えなくなります。網走や紋別は「薄くて板状」、稚内は「岩」、宗谷は「シャーベット」。おなじオホーツク海の流水でも本当に表情が違いました。稚内にある北防波堤ドームは、昭和初期に建てられた波（飛沫）よけの建物。まるで古代ローマの建築物のようです。高さ13.6m、全長は427mもあります。

上・左：宗谷岬 日本最北端の地碑と流水



上・右：北防波堤ドーム





抜海港～サロベツ原野

抜海港のアザラシは、出会えたらラッキーだけど無理だろうなと思ってたので、目の当たりして本当に驚きました。岩壁はとにかく風が強く、体感温度はマイナス15℃くらい。わずかなブロックの陰にいて、ひたすら水面上に顔を出すのを待ちます。いつどこから顔出すのか全く予想もつかず、また顔を出すのもせいぜい数秒。辛かったですけど何とか撮れてホッとしました。

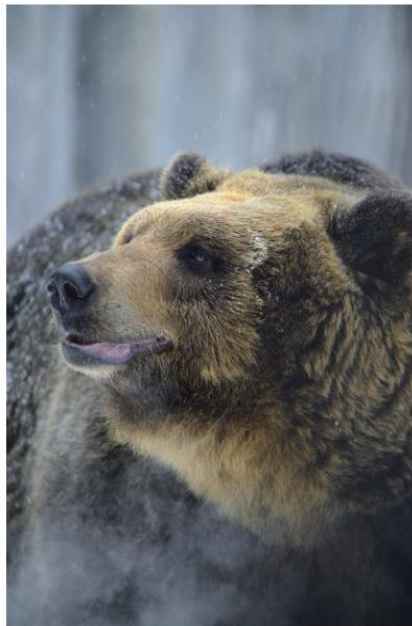
旅の最終地はサロベツ原野の大平原。過かに雪原が続き、見渡す限り人も動物も一切いません。青空のもと、素晴らしい旅の締めくくりになりました。

上・左：抜海港のゴマフアザラシ



上・右：サロベツ原野





旭山動物園のエゾヒグマ、とん子の
遠くを見る眼差しが忘れられず、
2度目の北海道でも旭山動物園に
足を運びました。

動物園の動物は、野生が減少した
分、人間的な感情や表情を表すこ
とがあるように思います。

1年ぶりに会ったとんこは相変わらず
遠くを見ていましたが、呼びかけに
応えて何度か目を合わせられるよう
になったのは進歩？でしょうか。

北海道は自然の宝庫であるとともに、
動物の宝庫でもあります。

いずれ野生のヒグマやフクロウ、イ
ルカ、クジラなどに会う旅もして
みたいと思っています。

＜撮影者プロフィール＞

梅津 基世人 Umezu Kiyoto

1961年神奈川県川崎市生まれ／群馬県伊勢崎市在住

WOODY PLANNING代表／紀行写真家

Photo Gallery : <http://www.woodyplanning.com/gallery.html>